

赤い靴 はいてた 女の子
異人さんに つれられて 行っちゃった
横浜の 埠頭から 船に乗って
異人さんに つれられて 行っちゃった
今では 青い目に なっちゃって
異人さんのお国に いるんだろう
赤い靴 見るたびに 考える
異人さんに逢うたびに 考える

母かよさんは、きみちゃんがアメリカに渡り幸せに暮らしていると信じて、小樽で亡くなっていますが、きみちゃんは結核を患い、横浜の波止場から異人さんに連れられて船には乗れなかったのです。

6歳で鳥居坂の教会の孤児院に預けられたきみちゃんは、9歳で亡くなり麻布十番の共同墓地に眠っています。



北海道新聞へ、後に生まれたきみちゃんの妹さんからの投稿がきっかけで判明した『赤い靴』

の実話。
小樽、留寿都村、函館と見に行ってきたが、きみちゃんの生まれ故郷を見下ろす、日本平山頂にある『赤い靴母子像』

を見に行く鉄道旅は続きます。

いつ行けるかなと思いながら過ごす日常もまた、楽しいものになっています。

I LIKE IT



小さな家族

田村 直子

2年前に縁があり、我が家に来た2匹の猫。白猫がナシロで兄、少し珍しい「麦わら」という毛色がサツキで妹です。

元々ノラ猫で4匹の兄妹猫でしたが、ある日急に母猫が帰ってこなくなってしまう、ご近所の方が保護してくれたそうです。ナシロは臆病でマイペースな性格。サツキは面倒見がよく好奇心旺盛です。兄妹だからか仲がとても良く、ご飯を食べる時も、遊ぶ時も、寝る時もいつも一緒です。

中2の娘は思春期で色々多感な時期でもあり、悩みを話しながら泣いてしまったりする事もあります。そういう時は面倒見が良いサツキの出番。娘が泣きだすと、「泣かないで」と言ってるかのようにそっと側に近寄ってスリスリします。また小1の息子は愛情の伝え方が少々荒く、強めになでたり、しっぽをつかんでしまう事もありますが、サツキは「しょうがないわね」という感じで怒ったりせず相手をしてくれます。ナシロは何故か、朝の支度が一番忙しい時間に足元にスリスリしてきて、「行かないで～」とアピールをします。小さいけれど、私達を毎日癒してくれる大事な家族です。

2024年
10月号
Vol.139

Free Paper
Memorandum



With Your Smile
～愛情豊かなベビーシッターと優しい笑顔の家事お手伝い～
ACSA 全国保育サービス協会

有限会社 ウィズ
〒346-0022
埼玉県久喜市下早見1125-33
TEL 0480-23-4196
FAX 0480-23-4099
http://withbaby.sakura.ne.jp

一般社団法人
日本育成子ども協議会
Japan Child Upbringing Conference
多様な働き方実践企業



— 赤ちゃんの誕生 —

吾子が私の元にやってきた。深い幾千の旅をして私と結びました。

この腕に抱くことが奇跡。私もあなたと歩み始めてます。近いのか遠いのか。私の小さな家庭から、あなたが自らの大きな一歩をはじめの日がやって来ます。脈々と流れる時間と遺伝子と何気なく息をするように。命のかぎり大切に育みます。なんと幸せな経験をもたらしてくれるのでしょうか。

★Vol.136からの市川麻紗子の記事『ウキウキの見つけ方』は“写真を水彩画風に変身!!”です。

★昨年からのテーマ『日常の中のハレの日』もお楽しみください。

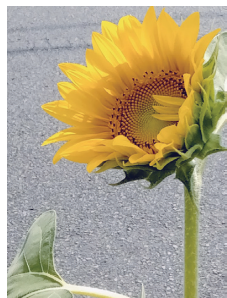
※弊社のHPがリニューアルしました。
Memorandumもご覧いただけます。

ウキウキの見つけ方

写真を水彩画風に変身!!

市川 麻紗子

撮影した写真はどうされていますか？プリントしてアルバムにまとめたり、スマホに保存したままだったり。思い出をいつも見られるように12インチサイズのレイアウトにして飾るのも素敵です。大切な思い出をきれいに長期間保存できるように※アシッドフリーの素材がお勧めです。



写真を撮る



線画に変換



絵の具で着色

今回は写真をちょっと加工して、絵画風にしてみました。無料のツールで写真画像を線画に変換し、着色していきます。

<https://tech-lagoon.com/imagechef/image-to-edge.html>

線画を着色する画材は、水彩絵の具、水彩色鉛筆、油性色鉛筆、マーカーなどがあります。今回水彩画で使った色は、黄、茶、緑、青の4色です。各色の濃淡は水の量で表現します。飾る場合は、台紙に貼って額に入れると色々なサイズが楽しめる感じになります。紙が薄い場合は、画用紙などの少し厚手の紙にプリントし、着色をしてもいいでしょう。

写真そっくりにできるため、「おーうまできた!!」となります。(自己肯定感UP!!)

大人になるにつれ、絵は苦手、どうせ上手く描けないと躊躇しますが、子どもは絵を描くのが大好きです。写真の線画を大きくすると塗り絵感覚で楽しめます。おうちの方と一緒に着色するのも良いですね。そして、ひまわりは黄色でなくてもいいのです。自由に色を付けながら、親子で会話しながらどんどん絵の世界を広げていって下さい。ちょっと面倒な形や風景なども、線画ができていると着色しやすいです。

※アシッドフリー・・・写真や作品を劣化させる“酸”を含まないという意味です。

日常の中のハレの日



合川 みどりシッター

ある日の外出先、麻布十番で童謡『赤い靴』のモデルとなった『きみちゃん』像に出会いました。横浜の山下公園にある『赤い靴をはいていた女の子』の像しか知らなかった私は、疑問と興味を持ち調べていくと、各地に点在していることが分かりました。特に鉄道旅が好きでちょうど稚内までの旅を計画していた事もあり、目的に道内の像めぐりを加えました。点にするその場所は、きみちゃんの母岩崎かよさんの足跡に大きく関係しています。

静岡県今の清水区で生まれたきみちゃんは、母かよさんに連れられて函館に渡ります。開拓の一員として後の夫と共に留寿都村の開拓農場へ入植します。想像を絶する過酷な労働に3歳のきみちゃんを連れていくには無理があると周りからの勧めもあり、アメリカ人宣教師夫妻に託します。

その後夫婦は、失意の内に札幌へ引き上げ小さな新聞社に職を得ます。間もなくして小樽に移るのですが、新聞社時代に知り合った詩人野口雨情に、かよは自分の身の上話をしたとされています。雨情はその話しに自分のイメージを膨らませて書いたのが、童謡『赤い靴』だったのです。